

司馬遷著「史記列伝」より。「老子」の章私訳

老子は楚その国こけん苦く厲れい郷きやう曲きよく仁にん里りの人である。名は耳じ、字は聃あざな、姓を李りし氏しと叫よんだ。周の国の守蔵室しゆざんしつ（書庫）の役人をしていた。そのころ、孔子が周へ行き、礼について老子に教えを乞うたことがある。すると、老子が答えた、「あなたが問題にしている礼は、それを実践した人は皆すでに死んで過去の人である。ただその言葉が遺つていてはただではないか。人間は、時を得れば成功して高位に就くこともできるし、時を得ることが出来なければ雑草のように朽ちて行くものである。商売の上手い人は、良い品は蔵の奥に蔵っておいて人に見せないように、人格の優れた人は、見かけは愚かな者のように振舞う、と昔から謂うではないか。まず、あなたの「驕気」（人より優れているという思い、自負心）と「多欲」（立派な仕事をうんとしたいという野心）、「態色」（良い格好をしたいと謂う欲望）、「淫志」（助平根性）を捨てることだ。これがあなたの人生の邪魔をしている。私があなたに言えることは、これだけだ」と。孔子は老子と別れた後、弟子に言った、「鳥は空を自由に飛び回り、魚は水のなかを泳ぎ、獣は人間より速く走る。そのことを心得ていけば、獣には網を張り、魚には釣り糸を垂れ、鳥には矢で射て捕える術を使うことが出来る。しかし、龍と来たら、風雲に乗って天に上ると言うのだから、捕まえようがない。今日、老子に会ってきたが、あの人は実に龍のようだった」と。

老子は「道徳（万物の生成の原理とその働き「道」、およびその働かせ方「徳」）を修めた人だった。その「学（身につけたところ）」は、みずからは隠れ、名無きを以て、務めとすること（以自隠無名為務）にあった。長く周の国に務めていたが、周が衰微し乱れて行くのを見て、周を去る決心をした。そして関所（函谷関）に差しかけた時、関所の役人の尹が老子を見つけ「あなたは周に見切りをつけ隠遁しようとするのですね。この機会に私に一筆書いていただけませんか」と請うた。そこで老子は、筆を執り、上下二篇の書、道徳の意を述べることに、五千余の書を著わし、去って行った。その後老子がどこに行ったか、誰も知らない。

別の言い伝えでは、楚の国に老萊子らうらいしと謂う人がいた。この人が老子ではないか、というのだ。彼には十五篇の著書があつて、道家の説を述べている。孔子と同時代の人だ。本当のところ、老子については判らないことが多い。百六十歳まで生きたという人もいるし、いや二百歳だという人もいる。その道を修めれば、長壽を全うするものだ。また孔子が亡くなつてから百二十九年後（戦国時代）に書かれた書に、周の国に太史儋たいたんという人が居て、秦しんの献公けんこうに見えて、こんなことを言つたという「もともと秦と周は同盟を結んでいたが五百年後に敵

対関係に入り、七十年後、それを統一する霸王が現われる」と。この儻が老子その人だと言
う者もいる。しかし、老子は隱者（「隱君子」）である。こんな行動に出る筈はない。老子に
子があつたとも言われ、名は宗。宗は魏の国の將軍になり、段干という土地をもらった（封
ぜられた）。宗の子は注。注の子は宮。宮の玄孫（孫の孫、曾孫の子）は假と言った。假
は漢の孝文帝に仕えた。そして假の子である解は膠西王印の太傅（左大臣太政大臣）になっ
て、齊の地に住んだ。世の人、老子を学ぶ者は儒学を非難し、儒学もまた老子を排斥する。
「道が異なるとお互いに相手のためになることはしないものだ（「道不同 不相為謀」と
言われているが、まさにこのことだろう。

『史記』は中国最初の正史。司馬遷著。黄帝から前漢武帝までの通史。

紀伝体で書かれ、本紀十三卷、世家三十卷、表十卷、書八卷、

列伝七十卷から成る。

司馬遷（一四八B C中元五年？～八六B C始元一年）夏陽陝西省韓城県の人。

二十歳のころから、父司馬談の命を受け諸国を旅し、古記録を収集。

元封三年（一〇八B C）父の跡を継いで太史令になり「太史公」と呼
ばれる。

天漢二年（九九B C）、匈奴の捕虜となった李陵を擁護して武帝の怒
りに触れ、下獄。宮刑に処せられる。二年後大赦。中書令となり、父
の遺命で着手していた修史の仕事に没頭。『史記』を書き上げた（九

一B C）。『史記』は「太史公書」とも呼ばれている。